



[発行]

社会医療法人 岡村一心堂病院
岡山市東区西大寺南2-1-7 Tel 086-942-9900

整形外科 西下 淑文

発行日:2021年4月28日(水)

さようなら ありがとう 声の限り

遂に、皆様に、お別れの御挨拶をしなければならない時が、やって来ました。
私が入職しましたのが平成5年の4月でした。皆様の中にはまだ生まれてない方もおられるのではないのでしょうか。早いもので28年が過ぎ、5月で65歳を迎えます。孫4人のおじいちゃんになってしまいました。

少し昔を振り返ってみましょう。当初建物の規模は今の半分ほど、スタッフ数も約160人で同じく半分ほど。今の点滴室の所は建物はなく通路と民家。点滴室への通路部分が救急室で点滴室入り口が救急患者さんが搬入される扉でした。MRI やPET-CT等のがんセンターとモアライフの建物は無く通路と駐車場。現在立派は広いリハビリ室がありますが以前は道路への張り出しはなく、そこには医局、応接室、事務室、当直室、理事長室がありました。リハビリ室は手術室の向かい側のこぢんまりとした部屋で二人のスタッフで行われていました。1階の泌尿器科、耳鼻科、生理検査室の所がレントゲン検査室で、出来上がったX線フィルムを技師さんが各診察室へ直接手渡しで運んできてくれました。そしてシャーカステンにフィルムを吊して読影していたものです。2階には耳鼻科、泌尿器科、小児科がありました。当院にも小児病棟があり赤ちゃんの鳴き声が聞かれていましたが、小児科医不足のためいつからか小児科が無くなってしまいました。5階はまだ機能しておらず明かりはつかずガランとしていました。

時を経て岡村一心堂病院は大きく成長してきました。そこには30年以上の時間を必要としました。その殆どの時を、私も一緒に関わってきたのかとつくづく思うと同時に、そんなにたくさんの時間が過ぎていることに驚きを隠せません。

そりゃ一歳も取るわけですよ。体力は落ち、視力も劣化し、踏ん張りも効かなくなってきました。若い時は、深夜に緊急手術を行い朝を迎えたこともありました。月22例の手術をした時は殆どが透視を使用するためかなり放射能に被曝しへ口へ口になったこともありました。週に2回の当直が続いたこともありました。今に比べれば滅茶苦茶ハードなことを行っていました。しんどいな～と思いつつ、でも、すごく楽しかったんです。いろんな課題をこなす次の課題に向かっていくことがすごく楽しかったです。しかし、最近は手術で麻酔のかかった重たい四肢を左腕で保持し、右手で手術操作をするのが辛くなってきました。一人でする手術の限界を感じるようになりました。眼も短時間でかすんでしまいモニターの文字が読めなくなってきました。腰と膝の読み分けが出来なくなりました。手術中の透視モニターもよく見えなくて技師さんからの画像のオリエンテーションが必要となってきました。そんなこんなで日々の診療がただただしんどいだけで楽しいと思うことがなくなってきました。こんな者が医者をしてはいけないという思いが強くなり65歳を期に引退を決意致しました。私の前任を含め30年間続けてきた整形外科診療を私が終わらせてしまうことを本当に申し訳なく思います。また、長きにわたり私を助けて頂いた全スタッフの皆さん、退職されて顔だけ覚えて多くの元スタッフの皆さん。皆さんのおかげで28年間居心地良く仕事をさせて頂きました。

本当に本当にありがとうございました。さようなら。